

										赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
										発行人/会 長 吉 岡 博 之	
赤 煉 瓦 倶 楽 部 舞 鶴										編集人/ 小 野 章	
										〒625-0062 舞鶴市森973 番地の1	
										FAX/0773-63-9764	
会報121号 令和5年(2023年)1月16日										E-mail brick7388@yahoo.co.jp	
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ										http://www.redbrick.jp/	

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。

目 次

1. 舞鶴線（東舞鶴駅～福知山駅間）鉄道施設調査について(2)	3. 図書のご紹介
2. 「懐かしい写真でたどる舞鶴の鉄道の歩み」展の開催報告	4. フォトコーナー
	編集後記

1. 舞鶴線（東舞鶴駅～福知山駅間）鉄道施設調査について（2）

吉 岡 博 之(会長・理事)

第2回調査報告

調査日時 10月8日(土)9時～12時

調査対象 舞鶴線：綾部市黒谷～綾部駅（※トンネルについては危険回避のために未調査）

当倶楽部初の舞鶴市域以外の鉄道調査です。当日は、スタート時に降っていた雨も止んでよい調査日和でした。以下、舞鶴市境から順に紹介します。

伊佐津川上流にある黒谷町集落の国道27号線を挟んだ樋ノ口の橋梁は、コンクリートに改修されていると思われましたが、実は煉瓦の上から厚く白ペンキが塗られていました。（写真1、2）



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

黒谷町には伊佐津川に架かる第二伊佐津川橋梁(写真3)、第一伊佐津川橋梁(写真4)があります。伊佐津川は、於与岐町の弥山麓に源を発して西流し、上杉町杉谷口で北に折れて西舞鶴平野を縦断して舞鶴湾に流れ込みます。黒谷町一ノセには舞鶴若狭自動車道伊佐津川橋脚がそびえる脇に舞鶴線野瀬川(伊佐津川)橋梁(写真5)があり、すぐ南側の上杉町杉谷口と同町坂の境には国道から舞鶴線を東にくぐって於与岐田野瀬に抜ける隧道があります(写真6,7)。自動車の通行はギリギリです。上杉第一溝渠(写真8)は、上杉跨線橋を越えてすぐ西側にあります。



写真7



写真8



写真9



写真10



写真11



写真12

梅迫町にある JR 梅迫駅構内を横断する通路と水路を兼ねた煉瓦造の第三梅迫橋梁(写真 9～12)です。ホーム東側の鉄道レールは既に撤去されています。八田川には多くの鉄道橋梁が架けられています。梅迫町の第七、第六八田川橋梁(写真 13、14)及び、下八田町の第一八田川橋梁(写真 15)は煉瓦造の橋台をもちます。湊垣町の第4、第3八田川橋梁(写真 16、17)は長い橋梁です。八田川とその支流の煉瓦造橋梁・溝渠・暗渠については、雑草に埋もれて未調査のものがあります。



写真13



写真14



写真15



写真 16



写真 17



写真 18



写真 19



写真 20



写真 21



写真 22



写真 23



写真 24 昭和 38 年に架け替えられた現在の下由良川橋梁



写真 25 同左



写真 26 川糸町に残る旧下由良川橋梁の橋脚



写真 27 同左



写真 28 同左

鉄道の下を道路が通る味方町アミダの架道橋(写真 19)と同町宮ノ前の第一舞鶴街道架道橋(写真 20～23)があります。後者は昭和 38 年(1963)に下由良川橋梁を下流側に架け替えたことに伴い RC 製の橋台を隣に造り、不用となった煉瓦造の橋台を斜めにカットして残しています。また、由良川左岸の川糸町には、当時の石張り煉瓦造の橋脚 5 基が線路脇に残されています(写真 26～28)。

2. 「懐かしい写真でたどる舞鶴の鉄道の歩み」展の開催報告

嵯峨根 八郎(理事)

日本の鉄道開設 150 周年及び小浜線開通 100 周年を記念して、昨年 11 月 4 日から 10 日まで 7 日間「アートスペース 973」で開催しました。

明治 22 年に海軍鎮守府設置が決定し、同 34 年に開庁、同時に日露戦争の足音が迫り、大阪を発し福知山を經由し新舞鶴までの兵站線としての鉄道建設を急ぎました。軍港への引込線は、戦後は中舞鶴線として昭和 47 年まで使用されました。一方、小浜線は百年前の大正 11 年に若狭高浜・新舞鶴間が開通し全通しました。これも鎮守府と日本海側各地を結ぶ輸送路

としての意義がありました。鉄道は、戦後も引揚者の輸送、内外貿易、貨物輸送、観光などに活用され舞鶴の発展に貢献しました。

こうした鉄道の舞鶴への歴史的な意義を再確認し、今後特に小浜線を活用していただくため、往時の様子を物語る写真や関連資料を展示する本展を開催しました。会場には、明治期の舞鶴・新舞鶴の両停車場、中舞鶴線、舞鶴港線、新舞鶴臨港線などの古写真、小浜線全通記念博覧会の絵葉書、往時の列車ダイヤ表、航空写真など多数の資料が展示されました。



熱心に参観する来訪者



駅舎古写真と準急ヘッドマーク



大正時代の市街図や絵葉書等



往時の西舞鶴と舞鶴港の鉄道状況



東・中舞鶴の鉄道の往時の様子



小浜線の発展史とかつての様子

3. 図書のご紹介：「旅する煉瓦」（深尾精一著、鹿島出版会刊 税込 3080 円）

この本は、著者が欧州・日本各地を取材した報告のほか、煉瓦積みの名称に関する持論を述べたものです。著者はかねて「フランス積み」「オランダ積み」なる名称に疑問を抱いており、文献調査と欧州での取材で一定の解を得たとしています。「フランス積み」は、本来「フラミッシュ積み」とするべきところを、明治初期の勘違い！からこの名称になったのだとします。「オランダ積み」の疑問については、著者がオランダを7回視察しても見ることが稀で、日本でこの名称に疑問を持ったのが契機だそうで、詳しくは本書を。

さて、舞鶴市取材の頁もありますが、あいにく雨模様の曇天の写真で煉瓦映えしていません。更にその解説に「赤煉瓦といえば舞鶴赤れんがパーク（福井県）」とあるのには「またかいな」と嘆息した次第。本書は市立図書館にあるのでご一読下さい。



4・フォトコーナー 赤れんが博物館前の広場の夕景です。生まれ変わりました。（上野仁氏撮影）



編集後記

○鉄道に関する展示を行い駅の呼称について改めて考えさせられた。昔は「駅」と「停車場」が混在していたようだ。石川啄木の歌集『一握の砂』（明治43年刊）からこの両単語を拾ってみた。「ふるさとの訛りなつかし停車場の人ごみの中にそを聴きに行く」「さいはての駅に下り立ち雪あかりさびしき町にあゆみ入りにき」と両方を使っているが、停車場が7回、駅が2回出てくる。駅舎の写真絵葉書の説明には停車場を使用しているものが多いが、口頭でも停車場の方が優勢だったようだ。その後昭和11年に鉄道省の職制改正で駅と停車場が区別され今日ようになった。○地元の駅名変遷を整理したい。東舞鶴の駅名は、開業の明治37年新舞鶴だが、39年その駅名を受けた新舞鶴町を設置、昭和13年の東舞鶴市設置を受け14年東舞鶴になった。西舞鶴の方は、明治22年舞鶴町設置、昭和13年舞鶴市設置で駅名は当初から舞鶴だったが、昭和18年東西舞鶴の合併により19年西舞鶴に改称した。○鉄道調査で数年ぶりに福知山市中心部を歩き「田舎のねずみ」の驚きを味わった。車の奔流と雑踏など活気ある「都会の風情」に驚いた。行き交う列車の本数も半端でない。自然の潤いも大切だが、あの賑わいは舞鶴でも復活させてほしいものだ。舞鶴の経済基盤は海の守り、造船、貿易などだろうが、喫緊の時代要請に応え往時の活気を取り戻せるような市政を来月の市長選以降期待できるだろうか。

本会の目的（要旨）：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格：会費納入者 年会費（個人1,000円、団体5,000円）。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先：①ゆうちょ銀行 四ノ川店（ヨンヨンハチ店）普通 3679505 口座名義 アカレンガクラブマイツル
又は ②京都北部信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号 0686767 口座名義 アカレンガクラブマイツル

